建物特性：通風･採風実験 ― ウインドキャッチャー効果

ウインドキャッチャー効果によって通風量がどの程度増加するか，実験を行いました。

- トレーサーガスによる測定（定常発生法）
- 室内の5点でガスを発生させ、ファンで攪拌
- 測定期間中のガス発生量と平均濃度から通風量を算出
- 屋外風の風向 ： 「北東」
- 通風量は屋外風速で基準化
- 測定期間中における平均風速は0.3～0.5m/s

1階平面図　　2階平面図

入口になる窓と出口になる窓がある

効果の得られる開け方

すべての窓が風の入口になり、出口がない

効果の得られない開け方

通風量の結果

	ウインドキャッチャー効果あり	ウインドキャッチャー効果なし
通風量	**399.3 m³/h**	**37.9 m³/h**

※ 屋外風 1.0 m/s 時

ウインドキャッチャー効果によって，その効果が得られない場合に比べておよそ10倍の換気量を得ることができました。